

環境政策 環境にやさしい循環型社会が営まれるまちをめざす

【環境政策の目標】〔総合的目標〕

環境負荷の低減につながる3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組を基本として、天然資源の消費を抑制し、排出された廃棄物の適正な処理を進めるとともに、資源化などの先進的な環境技術の導入やごみの発生・排出抑制につながる市民、事業者、市の各主体の環境配慮行動を促すことで、都市の利便性や活気を保ちつつ、環境にできる限り負荷をかけない循環型社会の実現をめざします。

環境要素		環境要素の目標
資源・廃棄物	環境負荷の低減につながる3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組を基本として、天然資源の消費が抑制され、排出された廃棄物の適正な処理が進められていること	
環境項目	環境項目の目標	指標
資源・廃棄物	環境負荷の低減につながる3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組を基本として、天然資源の消費が抑制され、排出された廃棄物の適正な処理が進められていること	<input type="checkbox"/> ごみ焼却量 <input type="checkbox"/> 市民一人一日当たりのごみ排出量 <input type="checkbox"/> 資源化率 <input type="checkbox"/> 産業廃棄物排出量 <input type="checkbox"/> 産業廃棄物再生利用率

総合的な評価に用いる指標

施策の方向	指標	総合的な評価に用いるもの
Ⅱ-1 一般廃棄物対策の推進	ごみ焼却量	○
	市民一人一日当たりのごみ排出量	○
	資源化率	○
Ⅱ-2 産業廃棄物対策等の推進	産業廃棄物排出量	○
	産業廃棄物再生利用率	○
	産業廃棄物最終処分量	○

施策の方向 Ⅱ-1 一般廃棄物対策の推進

指標	目標・現状・指標がめざす方向
ごみ焼却量	【目標】2015年度までに37万トン（※） 【基準年度】420,517トン（2009年度） 【指標がめざす方向】少ないほうが良い
上記目標の達成に向けて、次の点に留意するものとする。	
市民一人一日当たりのごみ排出量	【目標】2015年度までに988g（※） 【基準年度】1,069g（2009年度） 【指標がめざす方向】少ないほうが良い
資源化率	【目標】2015年度までに資源化率35%（※） 【基準年度】23.5%（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い

※ 「川崎市一般廃棄物処理基本計画（かわさきチャレンジ・3R）」の行動計画*に基づく目標数値

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：ごみ焼却量 ・370,849トン（対前年度：6,514トン減少、対基準値：少ない）	5*	4
■指標：市民一人一日当たりのごみ排出量 ・998g（対前年度：8g減少、対基準値：少ない）	5*	
■指標：資源化率 ・資源化率30.3%（対前年度：1.3%増加、対基準値：少ない）	2*	

[方向評価は「*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

2009（平成21）～2014（平成26）年度のごみ焼却量等の実績

西暦(年度)	2003	2009	2010	2011	2012	2013	2014		
和暦(年度)	H15 基本計画 基準値※1	H21	H22 行動計画 基準値	H23	H24	H25	H26		
日数	366	365	365	366	365	365	365		
人口(人)※2	1,293,618	1,409,558	1,425,512	1,430,773	1,439,164	1,448,196	1,461,043		
焼却ごみ(t)	500,954	420,517	412,712	401,893	392,926	377,363	370,849		
内 訳	家庭系焼却ごみ	371,367	300,212	296,368	278,553	275,587	258,810	249,626	
	内 訳	普通ごみ	355,396	293,313	289,213	270,732	267,759	250,435	241,632
		粗大・小物金属 可燃分	15,971	6,899	7,155	7,821	7,828	8,375	7,994
	事業系焼却ごみ	128,400	119,719	115,829	122,899	116,889	118,129	120,819	
	道路清掃ごみ	1,187	586	515	441	450	424	404	
資源化量(t)※3	118,223	129,351	128,664	144,685	143,054	154,299	161,541		
資源化率(%)	19.1	23.5	23.8	26.5	26.7	29.0	30.3		
内 訳	家庭系資源化物	81,869	75,816	76,196	91,236	90,715	99,472	102,298	
	内 訳	粗大・小物金属 資源化分	7,313	3,732	3,785	4,004	3,938	3,814	3,860
		空き缶	8,306	7,420	7,327	7,312	7,304	7,859	7,722
		空き瓶	11,859	10,930	10,969	11,577	11,653	11,921	11,960
		ペットボトル	2,485	4,655	4,872	5,167	5,103	5,168	5,076
		ミックスペーパー		1,172	1,865	10,618	10,662	13,306	14,063
		プラ製容器包装			269	3,896	3,811	9,008	12,395
		資源集団回収	51,237	47,474	46,684	48,260	47,875	47,999	46,654
		小型家電						2	79
		乾電池							268
その他※4	669	433	425	402	369	395	221		
事業系資源化物(t)	36,354	53,535	52,468	53,449	52,339	54,827	59,243		
乾電池(t)	290	247	272	295	245	287	※7		
総排出量(t)※5	619,467	550,115	541,648	546,873	536,225	531,949	532,390		
1人1日当たり ごみ排出量(g)※6	1,308	1,069	1,041	1,044	1,021	1,006	998		

※1 川崎市一般廃棄物処理基本計画（かわさきチャレンジ・3R）

※2 人口は、各年度10月1日現在の人口に基づきます。

※3 資源化量とは、家庭系資源物及び事業系資源物を含めて算出したものです。

※4 その他とは、自主回収、古布及び廃蛍光管の合計値です。

※5 総排出量＝焼却ごみ＋資源化量

※6 1人1日当たりごみ排出量とは、一般家庭（家庭系焼却ごみ・家庭系資源物）、事業者（事業系焼却ごみ・事業系資源物（事業活動に伴い出される資源物））、その他（道路清掃ごみ）の合計を人口及び年間日数（うるう年の場合は366日）で除したものです。

※7 使用済み乾電池を安定的にリサイクルすることができるようになったため、2014年度から資源化量の内訳へ記載することとしました。

■ごみ焼却量

市内の一般廃棄物の排出量は、ごみ非常事態宣言を行った1990年度をピークに減少し、2014年度の市内のごみ総焼却量は、370,849トンで、前年度に比べて6,514トン、1.7%の減少となりました。

その内訳を見ると、家庭系ごみは249,626トンで、前年度に比べて3.5%減少し、事業系ごみは120,819トンで、前年度に比べて2.3%増加しました。

■市民一人一日当たりのごみ排出量

2014年度の事業系ごみを含めた市民一人一日当たりのごみ排出量は998gで、前年度の1,006gに比べて0.8%減少しました。

■資源化率

2014年度の総排出量は532,390トンで、これらのうち家庭系資源物及び事業系資源物の資源化量は161,541トンで、資源化率は30.3%となります。370,849トンは処理センターで焼却処理し、残灰（保管分を除く）は浮島2期埋立地*に埋立処分しています。

施策の方向 II-2 産業廃棄物対策等の推進

指 標	目標・現状・指標がめざす方向
産業廃棄物排出量	【目標】2014年度における排出量について、2009年度の排出量を維持(※) 【基準年度】2,869千トン(2009年度) 【指標がめざす方向】現状維持
産業廃棄物再生利用率	【目標】2014年度までに約53%(※) 【基準年度】50.5%(2009年度) 【指標がめざす方向】高いほうが良い
産業廃棄物最終処分量	【目標】2014年度までに117千トン(※) 【基準年度】148千トン(2009年度) 【指標がめざす方向】少ないほうが良い

※ 「第5次川崎市産業廃棄物処理指導計画*」に基づく目標数値

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：産業廃棄物排出量 ・2,508千トン(対基準年度：361千トン減少)(※※)	5*	4
■指標：産業廃棄物再生利用率 ・40.6%(対基準年度：9.9%減少)(※※)	1*	
■指標：産業廃棄物最終処分量 ・92千トン(対基準年度：56千トン減少)(※※)	5*	

※※ 第6次川崎市産業廃棄物処理指導計画の策定に当たり実施した、川崎市産業廃棄物実態調査に基づく推計値

現 状

■産業廃棄物排出量

市では、産業廃棄物*行政の基礎資料とするため、5年毎に産業廃棄物実態調査を実施し、市内における産業廃棄物の発生、処理、処分状況を把握しています。

2014年度は、市域から発生した産業廃棄物の排出量(事業場内で生じた不要物量)は250.8万トンとなっており、2009年度の286.9万トンと比較すると、約36万トン減っています。

■産業廃棄物再生利用率

2014年度には、有償物量と再生利用量(排出量の中から原料として利用した量)を合計した資源化量は289万トンとなっており、発生量の66%が資源として有効活用されています。

なお、第5次川崎市産業廃棄物処理指導計画では、発生量から有償物を取り除いた排出量における再生利用率の目標値を約53%(2009年度：50.5%)と設定し、2014年度までに達成することを目指しています。

■産業廃棄物最終処分量

2014年度の調査結果による最終処分量は9万2千トンとなっており、2009年度の14万8千トンと比較すると、約5万6千トン減っています。

産業廃棄物の業種別発生量(2014年度実績)
(単位：万トン/年)

業 種	発生量	割合(%)
製 造 業	291.7	66.6
建 設 業	46.8	10.7
電気・上下水道業	90.9	20.7
その他	8.6	2.0
合 計	438.0	100.0

産業廃棄物の種類別発生量(2014年度実績)
(単位：万トン/年)

種 類	発生量	割合(%)
汚 泥	151.7	34.6
鋤 さい	181.7	41.5
がれき類	30.4	7.0
そ の 他	74.1	16.9
合 計	438.0	100.0